

〔史料翻刻〕

紀州藩家老三浦家文書（二四）

—江戸出府日記・御用番留帳—

上
村
雅
洋

凡例

- 五五 江戸出府日記（寛文一〇年正月朔日～正月二九日）
五六 江戸出府日記（寛文一〇年二月朔日～二月二九日）

凡 例

一 本文書は、和歌山大学紀州経済史文化史研究所蔵の紀州藩家老三浦家文書であり、日記類を中心にほぼ年代を追って逐時翻刻する。三浦家文書については、本誌第四号所収の「紀州藩家老三浦家文書目録」を参照されたい。

一 史料名は、できるだけ「紀州藩家老三浦家文書目録」を踏襲した。





一 使用字体は、常用漢字を用い、それ以外は異字・俗字・略字もなるべく原文のままを尊重した。

一 仮名文字は、江・而・者・茂以外は、すべて現行の字体に改めた。

一 印刷にさいしては、なるべく原本の体裁をとどめることを原則としたが、組版の都合上一部改めた。

一 本文が訂正されている場合は、書き改められたものを採用した。

一 印章はいちいち模刻せず、・のように輪郭を模した。

一 虫損・破損などによって文字が判読できない場合には、字数を推定して□で埋め、字数が推定できない時は、をもってその箇所を示した。

一 本文以外の部分は、上下に「」を付し、(表紙) (端書) (異筆) (付箋) などと傍注した。

一 文字の誤脱などには()で傍注を加えたが、判読可能なものについては、特に注記しなかったものもある。

一 文意の通じないもの、疑義のあるものには(ママ)と傍注し、推定可能なものには(カ)と傍注して意見を示した。

一 本文書の筆耕ならびに校訂は、上村雅洋(本学名誉教授)が行った。

五五 江戸出府日記

〔表書〕
寛文十年

戌ノ正月朔日

正月朔日

大殿様今日ハ御登城不被遊、明後三日ニ御登城被遊等也

一 殿様為御名代安藤帶刀今朝御城へ罷上、首尾能御礼相動申候

一 左京大夫様御登城被遊、如例御首尾能御礼被仰上候、対馬守なども罷上、自分之御礼申上候、拙者儀立居不自由ニ御座候ニ付、今朝ハ不罷上、高木伊勢守殿御指図之ことく、

御太刀目録彦坂儀左請取指上被申候処ニ、首尾能堀田備中守殿請取被成候由、委細ハ昨日之覚書ニ有之

一 拙者儀今朝五過ニ御中屋敷へ罷出候、左京様四時分ニ御城へ直ニ御中屋敷へ被成御座、大殿様へ御目見被遊候、其節拙者儀も罷出、首尾能御目見仕候

一 其以後御いわひ出申候節、拙者儀被召出、御祝儀之御あいさつ申上、御前ニ罷有候

一 四半時分ニ帶刀自分之御礼迄仕廻候而、御中屋敷へ致伺公、追付殿様之御名代之御礼帶刀相動申候、尤御進上之御太刀目録御樽肴、其節御前へ出申候、原田市十郎披露仕候、帶刀、市十郎も装束也

一 御姫様方御名代之御使御前へ罷出、御祝儀物御進上也

一 左京様御太刀目録ニ而御礼被仰上候、扱長光様御太刀目録ニ而御礼被仰上、則御三献出御盃こと被遊候、其節も拙者直ニ御前ニ罷有、初中後之御あいさつ申上候

一 其以後米姫様御名代之御使罷出、源之助様御太刀目録ニ而御礼被仰上候、其以後帶刀、対馬、拙者自分之御礼太刀目録ニ而申上御盃頂戴仕候、其節ハ如例何茂長袴ニ而御礼申上候

一 其以後大殿様表へ出御被遊、何も御目見仕候、其節も拙者御供仕御あいさつ申上候、御機嫌残所無御座候、扱入御以後御中屋敷へ直ニ左京様へ致伺公、太刀目録日根野九郎三郎方ニ相渡、鈴木四郎兵へも御礼申達、夫々御上屋敷へ致伺公、宮様へ之御祝儀海野五郎三郎方へ申達、長光様へ之御礼三上甚大方へ申達、太刀目録相渡、夫々御用人衆部屋へ參、今日之御祝儀申達、御広間へも罷出何もニ逢申、八

前ニ帰宿仕候

同二日

今朝四前ニ罷出、頓而首尾能致御目見御祝儀申上候、今日ハ御書初御読初御弓御鉄砲御鷹御覽被遊候、其節も御前ニ罷有御あいさつ申上候、儒者衆、医者衆など今日致御目見候、其以後八時分ニ帰宿仕候

一 此以前帯刀御当地ニ罷有候節少相煩、元日御城へ不罷上候由、就夫帯刀所之留書之趣

一 子之正月大殿様御在国之節、御留主被仰付候刻相煩、元日之御礼ニ不罷出候段、御城附衆迄申遣候事

一 差上候馬代之儀御城附衆頼申候、尤此儀ニ付御礼申達候儀も無御座候事

一 翌日二日中納言様御登城被遊候故御供仕、御献上之御太刀致持参奏者御番衆へ相渡候、尤自分之御礼ハ不申上候事、帯刀留書右之通也

一 昨日差上申候御太刀目録、堀田備中殿御請取被成候由ニ付、何方へも御礼申儀も可有之哉と、彦坂儀左を以福阿弥へ相談申候処ニ無用之由、福阿弥被申候由、其上右帯刀も此以前何方へも御礼不申之由ニ候故、弥其通ニ仕候

一 帯刀も気色能候故、元日ハ不罷出候へ共、二日ニハ御供仕罷上候由、拙者も御供ハ可罷成行歩ニ而候故、弥明日ハ御供仕罷上筈ニいたし候

一 昨日左京様へ年頭之御礼ニ致伺公候ニ付、今晚夜ニ入為御使伊与田平左衛門方被成下候

同三日

大殿様今朝五半時分ニ御登城被遊候処ニ、早速御礼被仰上御首尾残所無御座、昼前ニ御帰館被遊候、今日之御供拙者ニ被仰付候ニ付而、今朝五時分ニ御中屋敷へ罷出、右御供相勤、扱御中屋布左京様へ致伺公、今日大殿様御登城被遊、御首尾能残所無御座御祝儀申上、昨晚御使者被成下候御礼ヲも御用人衆迄申達候

一 夫々御上屋敷へ致伺公、宮様、長光様へ今日之御祝儀大殿様御首尾能御登城被遊候、御祝儀申上、夫々御用人衆部屋へも参、右之通中川七左、大沢善右方へ申達、昼過ニ帰宿仕候

一 殿様へ年頭之御礼申上候使者今朝早天ニ出申筈ニ候へ共、大殿様御登城被遊候段、為可申上少延引いたし、八時分ニ御当地ヲ出候、石橋市左衛門紀州へ指越申候

一 扱支度いたし、井伊掃部殿、板倉筑後殿、稲葉美濃殿、永井伊賀殿、久世大和殿、阿部豊後殿、板倉内膳殿、土屋但馬殿、酒井雅樂殿、土井能登殿へ年頭之礼ニ参候、佐野福阿弥方、一昨元日拙者登城不仕儀ニ付、色々肝煎被申候故、年頭之礼旁此次而ニ参候

一夜ニ入御中屋敷へ罷出、今日御登城被遊御機嫌弥能被為成御座候哉奉伺候、追付御座之間へ出御被遊、左京様へ御対面被遊、殿様へ被進候御盃台小出権大夫指上申候、其御台ニ而御銚子出、左京様と御盃こと被遊、役者共罷出謠申、扱高砂之御拍子御座候、其内大殿様御盃拙者ニ被成下頂戴仕候、其以後左京様御盃拙者ニ被下、是又頂戴仕候、其外何茂御前へ被召出御流被下候、高砂之御拍子過候と、則大殿様ニハ被為入候、其御跡ニ而左京様御前ニ而、芭蕉、祝言之御拍子御座候、其内何茂ニ御酒被下候、扱拙者盃苜沼九兵衛ニさし候様ニと左京様御意ニ而さし申候処ニ、其盃御前へ被召上御納被為成、過分冥加至極成仕合可申上様無御座候、扱左京様御帰被為成候、其御跡五過ニ帰宿仕候

同四日

今朝四前ニ宿罷出、三枝隠岐殿、妻木彦右衛門殿、諏訪勘

兵衛殿、同左門殿へ年頭祝儀ニ参候、夫々左兵衛殿へ如例太刀目録致持参、扱御奥様へ御礼ニ致伺公、夫々久野丹州、水野平右、渡部一学方へ参、扱御中屋布へ罷出候処ニ、追付致御目見良しバラく御前ニ罷有、昼過ニ御中屋敷罷出候一尾州様、同中将様、水戸様、同少将様へ御礼ニ致伺公候、如例御玄閨之御帳ニ付申候、其節安藤彦四殿、同帯刀方、長井清太殿、森川伝右殿、浅羽三右殿、堀田助左殿、同善右殿、畠山牛庵老、水野越州へ参、八時分ニ帰宿仕候

同五日

今朝四前ニ御上屋布へ罷出、御用人衆部屋へ参、今日之御祝儀申達、扱宮様御殿へ致伺公、今日之御祝儀海野五郎三郎方、三上甚太方へ申達、夫々内藤若狭守殿へ年頭祝儀ニ参、扱御中屋布へ罷出候

一 昼前三尾張様、同中将様、水戸様、同少将様、年頭為御祝儀御中屋敷へ御出被為成候、追付御座之間ニ而御対面被遊、如例何茂様御太刀目録、市十郎、平次右衛門披露仕候、例ハ御三献出御盃こと御座候へ共、りやく被遊御吸物斗ニ而御盃こと被遊候、御供ニ被召連候寺尾土佐守、松平志摩、服部小十郎、佐野内藏助御前へ被召出候、例ハ御盃被下候

へ共、是又りやく被遊、御のし被下候

一御盃こと相濟候上、長光様御出御対面被遊候、扱何茂様御立被成候、左京様御むかい御おくり等被遊候、拙者式も長袴ニ而如例相勤申候、何茂様御懇ニ御詞被為懸、過分忝仕合也

一昼過ニ帰宿仕、八前ニ宿罷出、永井日向殿へ年頭祝儀ニ参候、内々旧冬分御中屋布へ御出有度由、就夫能時分拙者御左右可申由御約束申候、一昨日於御城大納言殿、太田備中殿へ被申談候ハ、いつそ日向殿なと被仰合御出候様ニと被申候、其節御同道被成御出候様ニと、此段ヲも申置候、夫分柳生飛彈殿へ参候、同大膳殿、同又右衛門殿へも祝儀申置候、夫分坂部三十郎殿へ参候

一夫分因幡奥様へ致伺公、年頭御祝儀申上并先刻御樽肴拝領仕候御礼ヲも村嶋清兵ニ申置候、奥様ニハ年頭為御祝儀今朝分御中屋布へ御出被成候而御留主也、朝倉三之丞も御供ニ参候

一夫分相州様、志岐守様御玄関へ致伺公御祝儀申上候、然所ニ相州様他所へ御出、折節御帰候時分ニ而懸御目、首尾能御祝儀申上、夫分佐野内藏丞殿へ参候、是ハ一昨三日火事

ニ御逢候見廻旁也、同三郎右殿、同新左殿へも旁申置、夫分本多下野殿へ参、御留主ニ候へ共御祝儀申置、夫分沼間新五左殿へ立寄、正木甚五兵殿へ参、少之間語り申候

一夫分上野へ参、先双殿院へ如例銀子忝枚持参候而祝儀ヲ申、夫分致同道大師堂へ参詣仕候、如例是又銀子忝枚献上いたし、福寿院ニも逢申候、夫分円学院へ参候

一夫分御本院へ致同道候、日門様ハ日光へ被成御座御留主ニ而御座候へ共、如例銀子忝枚致持参、御祝儀御留主居之御出家衆へ申上候、夫分靈山院、且那院へ参候、且那院ニ而ハ少之間語り申候

一夫分毘門主御寺へ致伺公、是又上方ニ被成御座御留主ニ而候へ共、如例銀子忝枚致持参、御祝儀御留主居之出家衆ニ申達、夫分太田備中殿、近藤登之助殿、安藤九郎左殿、大久保甚兵殿へ参、夜ニ入帰宿仕候

同六日

今朝五過ニ宿罷出、岡野内藏丞殿、同孫九郎殿、小嶋助左衛門殿へ年頭祝儀ニ参、夫分中山備州へ参候、是ハ来八日之晚御老中御招請被遊候ニ付、拙者式ニも御勝手迄可致伺公之旨、昨日水戸様分以御使者御書被成下候ニ付而、右為

御礼参候、但憚入候ニ付而いつも伺公不仕候、其段備州能々御存之事ニ候間、来八日ニも其通ニ可仕候間、内々左様御心得給候様ニと此段をも申置候、夫々嶋弥太郎殿、渡部源藏殿へ祝儀ニ参候、源藏殿ニ而ハ良しバらく語り、昼過ニ御中屋布へ罷出候処ニ、首尾能致御目見しバらく御前ニ罷有、八時分ニ帰宿仕候

一 今晩御年越ニ付日ノ入合ニ罷出、御祝之節例之御時分御前へ罷出御祝儀申上候処ニ、能罷出候との御意ニ而忝仕合ともニ而、夜ニ入帰宿仕候

同七日

今朝四前ニ御上屋敷へ罷出、御用人衆部屋迄参、今日之御祝儀申達、夫々宮様御殿へ致伺公、海野五郎三、長光様衆へ御祝儀申達、夫々御中屋布へ罷出、頓而致御目見良しバらく御前ニ罷有、昼時分ニ御中屋敷罷出候

一 源之助様二三日以前御疮瘡被遊候由、只今御中屋布ニ而九兵衛申聞候、右之段沙汰不致様ニ何も必御見廻不被申上様ニと、左京様御意被成候ニ付、不申聞由ニ候、則九兵衛致同道、今日之御礼旁ニ左京様、同御奥様へ致伺公、今日之御祝儀旁何も迄申達候

一 九兵衛所へ日婦被参御入候由ニ付、九兵衛所へ立寄、日婦も逢申、夫々小川新九殿へ礼返しニ参、八前ニ帰宿仕候一 八時分ニ宿罷出、有馬出雲殿、片桐石見殿、野瀬秀善老、木下左近殿、田中大隅殿、村越道半老、松平数馬殿、同源左衛門殿、長徳院、酒井佐右殿、酒井良庵、三浦志摩殿、大森信濃殿、大岡弥右衛門殿、朝倉仁左衛門殿、沼間新五殿へ礼返し、又ハ祝儀ニ参、暮合ニ帰宿仕候

一 有馬出雲殿ハ一昨日御息宮内殿私宅へ御越、年頭之御礼ニ御中屋布御玄関迄致伺公度存候へ共、病气故不能其儀候、御息宮内殿ヲハ指進申度候へ共、五節句等ニも伺公不致様ニと、旧冬御断ニ御座候処ニ、いか、と延慮仕候、余人トハ替り申候間、如何可有御座候哉、拙者ニ相談之由被申越候ニ付、今日参申置候ハ、右之段得其意存候、右之通何もへ御断被申候、尤其上ニも御出被成候衆も御座候へ共、同ハ御断如被申候ニ、弥御出不被成可然存候、拙者方迄被仰聞候通申聞候処ニ被入御念之段、別而満足被申候、宮内殿へも一昨日ハ御出置由申置候

同八日 晩方少雨

今朝四前ニ御上屋布へ罷出、御用人衆部屋へ参候、是ハ長

光様之御名長福様と御替被為成候由、海野五郎三、三上甚太公被申聞候ニ付而、御悅中川七左へ申達、夫公宮様へ致伺公御つき／＼衆迄右之段申達、夫公御中屋布へ罷出候

一 頓而致御目見、其以後も御前へ罷出しバラク罷有、八時分ニ御中屋敷罷出候

一 御中屋布公御松姫様へ致伺公候、是ハ昨日年頭之為御祝儀御目録被下置候御礼真田弥三右衛門ニ申達、則帰宿仕候

一 後藤四郎兵衛近日致上京候ニ付而、為暇乞今八過ニ私宅へ参候、料理出し緩々と語り、暮合ニ四郎兵衛帰り申候

同九日

今朝四前ニ寺尾土州へ参候、是ハ明十日之晚御老中御招請被遊候ニ付而、拙者式ニも御勝手迄可致伺公之旨、昨日從尾州様以御使者御書被成下候ニ付、右為御礼参候、但憚入候ニ付而いつも伺公不仕候、其段土州能々御存之事ニ候間、明十日ニも其通ニ可仕候間、左様御心得給候様ニと此段ヲも申置候

一 夫公御中屋布へ罷出、追付致御目見しバラく御前ニ罷有、又其以後も罷出、八前ニ帰宿仕候

同日 夜ニ入雨

安宮様、長福様今朝四過御登城被遊候、其前方為御迎戸沢殿御出、表向ニハ久貝惣左衛門殿御出、殊ニ惣左衛門殿ハかちニ而御こし之さきニ御供也、御洞坊被召連候儀日からかさ御さ、七被成候儀、町等之掃除辻々ヲも此方之御衆ニ警固被仰付候様ニとの儀、旁千代姫様御登城之時のことくニとの儀ニ而、其通ニ被仰付候

一 御登城被成候と追付公方様、御台様へ御目見被遊、御盃之上ニ而来国光之御脇指并さんごじゅ水玉など、申物、長福様御拝領被遊、扱終日之御馳走之由、帯刀対馬其外御供ニ被召連候者、此方へ中戻り仕候者の外、御城ニ罷有候者之分ハ御馳走ニ奉達候由、万事御馳走之御様子、千代姫様御登城之御様子ニ少もちがい不申之由

一 終日御城ニ被成御座及暮御帰館被遊候、竹橋公ハ御ちやうちんとぼし申候由、竹橋之御門、糺町之御門、何も披キ、内外ニ大ちやうちんとぼし、結構成御馳走之由ニ而、御母子様夜ニ入御上屋敷へ被為入候、拙者儀今朝五前ニ御上屋敷へ罷出、惣左衛門殿御出候御あいさつなど仕、扱出御之節御門外迄罷出、扱御中屋敷へ致伺公、頓而御目見仕御祝儀申上候処ニ御機嫌之御事也、扱昼時分ニ先帰宿仕候

一八過ニ雅楽殿、美濃殿、但馬殿、今日之為御祝儀御中屋布

へ俄ニ御出之由申來候ニ付、追付罷出候へ共早御帰候、其以後御前へ罷出御祝儀申上、御機嫌残所無御座候

一御母子様御帰館被遊候と御中屋敷ニ而承、則御上屋布へ致伺公御祝儀申上、小栗長右衛門殿へ振廻ニ參、夜ノ七前ニ帰宿仕候

同十一日 終日雨

今朝四前ニ御中屋布へ罷出候、昼前ニ御具足之御祝出申候時分、拙者被召出御祝儀申上、しばらく御前ニ罷有、御機嫌之御事也

一昼過ニ為上使稲葉美濃守殿御上屋敷迄御出候由、則大殿様御出合被成御対面被遊候、昨日之為御祝儀大殿様へ御時服十二種一荷御拝領被遊候、殿様へ御時服廿三種二荷御拝領被遊候、御吸物出御盆こと被遊候、其節長福様も御出、美濃殿へ御対面被遊候

一带刀、対馬、権大夫、甚大夫昨日御供仕候ニ付而御時服拝領仕候、則美濃殿御前ニ而頂戴仕候

一美濃殿御帰以後大殿様直ニ宮様之御殿へ被為入候、おふみ殿御出之由ニ付緩々と宮様ニ被成御座候、就夫拙者儀八時

分帰宿仕候

一带刀、対馬などハ右為御礼御老中へ參候

一長光様今度長福様と御名御改被為成、御紋ヲも御附被為成、扱昨日始而御登城被成御目見被遊、旁に乍恐目出度奉存、三上甚太方迄以使者御脇指差上申候、代金三枚左文字也、対馬守も御道具指上申候由、帯刀ハ先年御名指上申候節、御道具進上申候ニ付此度ハ指上申候

同十二日

一昨日之為御祝儀今朝四過ニ安宮様、長福様御中屋布へ被成御座候、為御祝觀世大夫ニ御能被仰付候、拙者儀今朝四前ニ罷出、頓而致御目見しばらく御前ニ罷有候、今日ハ御屋布ニ罷有候而も不苦御様子、其上今晚私宅へ客御座候ニ付、昼時分ニ帰宿仕候

一今晚私宅へ之客渡源藏殿、高庄右衛門殿、小助左衛門殿、山口焉求、守随倫林、何も八時分御出、いかにも緩々と御語り、夜更八時ニ御帰候、小うた舞致候八郎右衛門、五右衛門、庄右衛門、善兵衛と申者、一昨晚小栗長右衛門殿ニ而約束いたし今晚參候

一菅沼九兵衛、今晚本多主馬殿へ振廻ニ參、暮候而直ニ私宅

へ被參候、しばらく有之候而、小やうつまり候ニ付四過ニ
歸り被申候、夜中も通し不申候

同十三日

今朝早天ニ九兵所へ気色見廻ニ參、五時分ニ致帰宿、四過
ニ御中屋布へ罷出、頓而致御目見、夫又九兵所へ見廻、
昼過ニ帰宿仕候、又夜ニ入九兵所へ見廻、五前ニ帰宿仕候、
九兵気色昨晚ハ次第二快気之様子也

同十四日

今朝四前ニ九兵気色見廻ニ參、夫之源之助様御抱瘡奉伺、
夫左京様御用人衆部屋迄參、昨晚九兵衛所へ被為成候御
礼申上、夫御中屋布へ罷出候

一安藤帶刀儀一昨日奉書出申候ニ付、今日御当地罷立候、就
夫今朝御中屋布へ罷出、御返事被仰聞御暇被下候、其以後
拙者儀御前へ罷出、九兵衛氣分度々御尋被為成、御茶迄致
拝領候御礼申上、しばらく御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候、
一内々今晚坂部三十郎殿、其外振廻申筈ニ候へ共、三十殿指
合、其外之衆ニも障入之方有之ニ付相延申候、右振廻相延
候ヲ不被存、水野越中おしかけ被參候ニ付、取あへず料理
出し、茶振廻申候

一今晚御年越ニ御座候ニ付而、暮合ニ御中屋布へ罷出候処ニ、
早速致御目見如何御祝相濟候、以後又罷出御祝儀申上候処
ニ、御機嫌之御事ニ而、御手つから御くわし頂戴仕、仕合
残所無之候

一御中屋敷九兵気色見廻ニ參候処ニ、今晚ハ大騏ニ而気色
殊外能候而、五前ニ帰宿仕候

同十五日 終日雪降

今朝四前ニ御上屋布へ罷出、御用人衆部屋へ參、夫宮様
御殿へ致伺公、今日之御祝儀申上候、長福様へハ致御目見
御手御のし頂戴仕、夫御中屋布へ罷出候処ニ、早速致
御目見御祝儀申上、しばらく御前ニ罷有候

一其以後又御前へ被召出、先日從御台様、安宮様御みやげニ
被為成候様ニとの御事ニ而、大殿様へ被進候御箱御前ニ而
一々御見せ被為成、拝見目ヲ驚申候
一屋前ニ御中屋布罷出、左京様へ致伺公、御用人衆へ今日之
御祝儀申達、夫九兵所へ見廻、昼時分ニ帰宿仕候
一源之助様御抱瘡、今日御酒湯被為懸候、右為御祝儀源之助
様へ御看指上申候
一今八時分御鷹場へ參候御鷹之雁、大井勘九郎奉ニ而致拝領

候、御礼之儀ハ今日ハ致無用ニ、明日ニ而も罷出候様ニト御意之旨ニ而、重疊過分冥加至極成仕合也、併則罷出勘九迄御礼申上、帰宿仕候

一 先日長福様へ御道具指上申候節、三上甚大方迄指越申候使鈴木弥五左衛門ニ御小袖被下置之旨ニ而、甚大方被指越頂戴致さ七候、則為御礼甚大方迄先以使者御礼申上候、尤弥五左衛門も甚大方迄御礼指進候

同十六日

今朝四時分ニ御上屋布へ罷出、昨日家来之者ニ呉服被下置候御礼、三上甚大方迄申上、夫々菅沼九兵衛所へ見廻、扨左京様奥様之御玄関迄致伺公、昨日源之助様御酒湯被為懸候御祝儀、又大之助様御疱瘡被遊候御機嫌奉伺、夫々左京様之御用人衆部屋迄參、右御悅をも申上、扨御中屋布へ罷出候

一 水戸少将様御疱瘡被遊候ニ付、昼過ニ御中屋布罷出、少将様、宰相様御玄関へ致伺公、御取次へ御機嫌奉伺、則罷帰候、其刻平次右ニ少用所候而、又御中屋布へ罷出、平次右ニ逢帰宿仕候

同十七日

公方様今朝紅葉山へ御參宮被遊候、還御以後大殿様御參宮被為成候、拙者儀御供可仕やと奉伺候処ニ、相勤候様ニト被仰出、俄御供仕候

一 大殿様御道眼ニ而御參詣被遊候、拙者なとハ上下ニ而御供仕候様ニとの儀ニ而、上下ニ而御供仕候、四半時分ニ御中屋布御出被為成、九半時分ニ御帰館被遊候

一 拙者儀今朝四前ニ罷出、追付致御目見候、御かこいニ而御膳被召上候御時分ニ而、則御酒給候様ニとの御意ニ而御膳之御意ニ而候ニ被下頂戴仕候、御前ニ而御酒被下候様ニとの御意ニ而候へ共、御かこいニ而御座敷せまく御座候故、御次へ罷立御酒被下、右御供相勤、八前ニ帰宿仕候

同十八日 昼時分迄雨

今朝四前ニ菅沼九兵衛所へ見舞、夫々大之助様御疱瘡御見廻ニ罷出、つくり花指上、夫々御中屋布へ罷出候処ニ、追付致御目見良しバラく御前ニ罷有候

一 明日於御中屋敷、大殿様へ今度之為御祝儀、安宮様御膳御上被成候ニ付、拙者式ニも御勝手ニ而御料理可被下由、御使者被下候旨、私宅々申越候ニ付、御中屋布々直ニ御上屋敷へ罷出、右之御礼御つきく衆迄申達、昼過ニ帰宿仕候

一今晚福岡大郎八方山中道与老、千宗佐和宅ニ而振廻申候、
八過ニ何も被參、夜ニ入帰宿被申候

同十九日

今度安宮様、長福様始而御登城被遊候、為御祝儀今日御中
屋布ニ而大殿様へ安宮様御膳被進、觀世大夫ニ御能被仰付
候、然所ニ長福様ふと御能可被遊由被仰出、舟弁慶ヲ被遊
候、其様子中々何も驚目奉感候、大殿様御太悦、其感も無
御座、御褒事ニ而御機嫌残所無御座、終日御祝被遊候、拙
者式ニも御勝手ニ而御料理被下過分忝仕合也、拙者儀今朝
四前ニ罷出、七前ニ致帰宿候、扨宮様御帰被為成候ヲ承、
暮合ニ御上屋布へ罷出、宮様御殿へ致伺公、今日之御祝儀
又御料理被下候御礼ヲも申上、則帰宿仕候

同廿日 夜ニ入雪

今日公方様上野へ御參詣被遊候、大殿様未御病後路次とを
く被成御座候儀御不自由ニ付、還御以後為御代參加納平次
右衛門被遣候

一今昼時分如例御具足之御祝御座候、拙者儀今朝四時分ニ罷
出、御祝前ニ致御目見、扨御祝之節も御前へ罷出候処ニ、
祝申候様ニとの御意ニ而御祝頂戴仕、又御前へ罷出候処ニ、

御酒給候様ニとの御意ニ而、左京様御前ニ而大盃ニ而御酒
被下仕合殘所無之、昼過ニ御中屋布罷出候

一從安宮様昼時分ニ為御使者永井惣右衛門方被成下、御口上
ハ兼々御願被遊候、長福様御目見之儀相濟、宮様御本望御
大慶不過之被為思召候、御台様へ久々御対面不被遊候処ニ、
大殿様思召を以御登城被成、是又御大慶ニ被思召候、昨日
ハ大殿様へ御膳ヲも御上被成候処ニ、御機嫌能旁為御祝御
目録之通被下置之旨ニ而、御小袖ニ、御羽織一致拝領候、
就夫御中屋布ハ直ニ宮様御殿へ致伺公、右之御礼海野五郎
三郎方へ申達、夫ハ御用人衆部屋へ參、右之仕合過分忝之
旨ハ沢善右方へ申達、八前ニ帰宿仕候

一則如例自分之具足之祝仕候

同廿一日 終日雪みぞれ

今朝御堂へ左京様御參詣御配膳被遊候間、拙者ニも相勤可
申之旨昨晚被仰出候ニ付而、今朝早天ニ御堂へ致參上、左
京様御出ヲ相待罷有候

一左京様五時分ニ御參詣被遊、御装束ニ而御配膳被遊候、拙
者儀尤ゑほし大紋ニ而御配膳相勤申候、則御名代ニ候間、
御焼香ヲも相勤候様ニとの儀ニ御座候故、是又相勤申候

一 右之段相濟自分ニ奉拝、其節金子壹分献上仕候、大殿様之御そなへ物かろく御座候ニ付、拙者式之も例かろく仕右之通也

一 御堂直ニ御殿へ罷出、御名代之御配膳御焼香相勤申候由、御用人衆ニ申達、四前ニ帰宿仕候、夜前分今日ハ雪ふり殊外寒候ニ付、最早今日ハ御屋布へ不罷出候

同廿二日

水戸少将様御庖瘡色々御養生被遊候へ共、御本復無御座御遠行被遊候由、今朝中山備前方分小野対馬方へ申越候、就夫早々為御使水戸様へ原田市十郎被遣候、今朝五半時分也、拙者儀も其節水戸様御玄関迄致伺公、夫分刑部様、播磨様へ致伺公、戻りニ菅沼九兵衛所へ立寄、扱御中屋布へ罷出候

一 少将様御庖瘡さし而大事之様にも御沙汰無御座候へキ

一 頓而致御目見候処ニ、少将様之御事被仰出、水戸様へ致伺公候哉と御尋被為成候ニ付、右御三人様江致伺公候由申上、扱しばかりく御咄被遊候、御あいさつ申上、昼過ニ帰宿仕候、今朝も先御中屋布へ罷出、夫分右御方様へ致伺公候

一 宿ニ而支度いたし八過ニ罷出、讃岐様、右京様御玄関迄伺

公仕、日之入合ニ帰宿仕候、右京様ニ而八土屋但馬殿ニ懸御目候、讃岐様ニ而太田備中殿ニ逢申候

一 今晩長徳院養貞私宅ニ而振廻申候筈ニ候へ共、右之御様子故相延申候

同廿三日

今朝四時分ニ罷出、頓而致御目見しばかりく御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候

一 八時分ニ為上使松平民部少殿御出、水戸少将様御遠行ニ付而之御事也、則為御礼原田市十郎御上被成候、右上使御座候由宿ニ而承、則罷出御帰以後、七前ニ帰宿仕候

同廿四日

今朝四時分ニ罷出、頓而致御目見しばかりく御前ニ罷有、昼過ニ御堂へ参詣いたし、日法様御いはひ奉拝候、当月ハ御証目故也

一 夫分菅沼九兵衛所へ見廻、しばかり語り、八前ニ帰宿仕候
一 久世大和守殿御息勝之助殿庖瘡被成候由、就夫七時分ニ大和守殿へ見廻申候処ニ能時分ニ参、則懸御目右之段申達、夫分永井日向殿へ気色見廻ニ参申置、七半時分ニ帰宿仕候

同廿五日

今朝四時分ニ罷出、追付致御目見良しバラく御前ニ罷有、
昼過ニ御中屋布罷出候

所御座候由申候而、茶湯之節ハ不參、暮合分參緩々と語り、
夜半過ニ帰宿仕候

一今日大之助様御酒湯被為懸候ニ付而、御悦ニ致伺公、左京

同廿七日

様御殿へも致伺公、御用人衆迄右之御祝儀申達、菅沼九兵衛所へも立寄、八前ニ帰宿仕候

今朝四時分ニ罷出、追付致御目見良しバラく御前ニ罷有、
昼過ニ帰宿仕候

一右為御祝儀大之助様へ御看指上申候、其以後左京様奥様御使者被成下、此度御子様方御疱瘡被遊候ニ付、折々御機嫌窺ニ致伺公、此度大之助様御疱瘡被遊候ニも、右之通先日つくり花、今日御看ヲも指上申候儀御満足被遊候との御意殊ニ為御祝儀御看菊酒など致拝領候、就夫先山本市右方迄以使者御礼申上候

一七時分ニ宿罷出、久世勝之助殿疱瘡為見廻大和殿へ參候処ニ能時分ニ而、則懸御目右疱瘡かろく御座候而日出度存候由申候処ニ、懇成あいさつニ而候、一昨日昨日ハ以使者見廻申候
一佐野福阿弥昨昼俄死去被致候ニ付円阿弥へ見廻申候、右之通仕廻、七半過ニ帰宿仕候
一あふみ殿昨夜御死去之由、就夫野瀬秀善、同小三郎方能勢勝左衛門殿へも以使申入候

同廿六日

同廿八日

今朝四時分ニ菅沼九兵衛所へ見廻、夫左京様御奥様へ致伺公、昨日御使者を以御看菊酒など拝領いたし、御礼山本市右衛門方迄申達、夫御中屋布へ罷出候処ニ、追付致御目見良しバラく御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候

夜ニ入雨

一今晚小嶋助左衛門殿へ、高田庄右衛門殿、渡部源藏殿、水野越中方、山口焉求など茶湯ニ御越候、拙者ニもおしかけ參候様ニと、源藏殿が一昨日の度々御申越候へ共、難去用

今朝四時分ニ御上屋布へ罷出、御用人衆部屋へ參、夫分安宮様へ致伺公、今日之御祝儀海野五郎三方へ申達、夫分御中屋敷へ罷出候処ニ追付致御目見候

一今晩小嶋助左衛門殿へ、高田庄右衛門殿、渡部源藏殿、水野越中方、山口焉求など茶湯ニ御越候、拙者ニもおしかけ參候様ニと、源藏殿が一昨日の度々御申越候へ共、難去用

一六七郎様御疱瘡以後今日始而御中屋布へ御出被成、年頭之御礼御太刀目録ニ而被仰上、其上ニ而御盃こと被遊候、其

節も拙者儀御あいさつ申上、昼過ニ帰宿仕候

一日養聖人御中屋布へ被罷出、追付御対面被遊候間、拙者ニ

も知せ申候様ニと、御用人衆へ被仰付候由ニ而被申越候ニ

付、則罷出候処ニはや被致御目見退出也、然共御前へ罷出

致御目見候、其節御年譜御よませ被為聞召候ニ付、其御あ

いさつ申上、七時分ニ帰宿仕候

同廿九日 晩方雨

今朝四時分ニ罷出候処ニ、頓而致御目見良しバラく御前ニ

罷有、昼時分ニ御中屋布罷出、九兵所へ立寄、上野へ致伺

公候

一今度日門様於日光御不例ニ被成御座候処ニ、早速御快氣ニ

而去廿三日御帰山被遊候得共、何角といたし延引今日御玄

関迄致伺公、右御祝儀之段、大西宮内卿へ申達、夫分双殿

院へ立寄申候、留主ニ而申置、七前ニ帰宿仕候

五六 江戸出府日記

(表書)
寛文十年

戊ノ二月朔日

二月朔日

今朝四時分ニ御上屋布へ罷出、御用人衆部屋迄參、夫分安

宮様へ致伺公、今日之御祝儀申上、夫分御中屋敷へ罷出候

処ニ、頓而致御目見しバラく御前ニ罷有、扱左京様へ致伺

公今日之御祝儀申上、菅沼九兵所江立寄、昼時分ニ帰宿仕

候

一七時分ニ久世勝之助殿瘡為見廻大殿へ參申置、夫分坂

部三十郎殿へ見廻申候処ニ、留主ニて是又申置、七半過ニ

帰宿仕候

同二日

日門様例ハ今日御中屋布へ御出被成候へ共、今度御不例以

後未御行步御不自由ニ被成御座候ニ付而、昨日も漸々御登

城被遊候御様躰ニ被成御座候ニ付而、此方分立而御断被仰

進候ニ付而、為御名代旦那院僧正御越被成候、昼前ニ旦那

院御中屋布へ御出、則御対面被遊御請被仰上候、扱御酒ヲも參御歸候様ニ、拙者御馳走可申由被仰付候、双殿院、拙

者致相伴御酒進申、昼時分ニ御歸候、拙者儀今朝四時分ニ罷出しバラく御前ニ罷有、且那院御歸候以後帰宿仕候

一今朝日光久野之御鏡御頂戴被遊候由、其段前方不存候故拙者ハ不罷出候、今日上野出家衆何も年頭為御礼御出之由、

何も御玄關之御歸候由、双殿院ハ今朝之御中屋布ニ被罷有候

一従日門様為御使僧壽永寺を以年頭御祝儀と御意被為成、如

例御太刀目録拝領仕候、拙者儀御中屋敷ニ罷有候内ニ而御

申置御歸候、毘門主之今度御当地へ為使者御越候小田助

之進と申仁、私宅へ毘門主之御書御持參、年頭為御祝儀た

き物杉原なと被下置候、是又右同時ニ而御申置候

同三日 終日雨

今朝四前ニ宿罷出、上野へ致伺公候、先双殿院へ參候処ニ、

御本院へ被罷出候由ニ候故、則御玄關迄參上いたし、双殿

院ヲ呼出し昨日之御礼申上可罷歸と仕候処ニ、はや円学院

御出、幸今日ハ御寺中之出家衆、年頭之御礼御請被成候と

て、御表江出御被遊候間、致御目見候様ニと御申候故辞退

仕候へ共、是非共との儀ニ而御前へ被召出、致御目見過分忝御意ニ而退出仕候

一夫之毘門主御寺へ致伺公、御留主居之御出家一おん坊へ昨日之御礼申達候、日門様御使僧壽永寺へも以使申候、毘門

主御使者小田助之進方へも以使申達、保田治部卿迄へ之御請之状ヲも指越申候

一夫之大野日養聖人御入候大応寺へ參候、幸日養宿ニ御入候而対面仕、盃なと出しバラく語り申候、今度大野へ入院之為祝儀銀子壹枚持參仕候

一扱御中屋布へ八時分ニ罷出、昨日従日門様年始之為御祝儀

御太刀目録致拝領候、為御礼上野へ致伺公只今罷出候、ひ

とへニ御影故と難有奉存候旨、市十、平次右、御用人衆へ

も御礼申達、八過ニ帰宿仕候

同四日

昨日久世勝之助殿、酒湯御懸り候由ニ付、為祝儀今早天ニ

大和殿へ參懸御目、則帰宿仕候、其節坂部三十殿私宅へ御

見廻候故、取あへず料理出しバラく語り、五過ニ御歸候

一其以後四時分ニ罷出、頓而致御目見良しバラく御前ニ罷有、

昼過ニ帰宿仕候

同五日

玉沢日養聖人、今度大野之住寺ニ御定、公儀へ之御礼も相濟申候ニ付、右為御祝儀今日日養御振廻被為成候、隱居日近、身松日閑ヲも同事ニ御振廻可被成との儀ニ御座候処ニ、日近ハ被致延慮候、日閑ハ被參候、両僧御振廻、其以後御対面被遊、御盃こと被遊候、八時分ニ被參、七過ニ退出被申候、右御振廻之相伴拙者ニ被仰付候、今朝四過ニ罷出、兩僧退出以後帰宿仕候

同六日 終日雨

今朝四時分ニ罷出、昼時分ニ致御目見しバらく御前ニ罷有、八時分ニ帰宿仕候
一 今晩森川伝右衛門殿、長井清大夫殿私宅へ申請、緩々と語り申候、急度振廻と申儀ニ而ハ無之、八時分御出、夜ニ入五過ニ御帰候、酒井隼人も呼申候

同七日

今朝四時分ニ罷出、頓而致御目見、しバらく御前ニ罷有候
一 水戸様今度御指合以後、今朝始而御登城被遊候ニ付、昼時分ニ御中屋布へも御出被為成候、しバらく御咄被為成候、御帰以後拙者儀御中屋布罷出、日近聖人へ見廻申候、当年

未逢不申候ニ付而也

一 夫々安藤彦四へ見廻申候頃、御振廻可有との儀ニ候へ共、先約旁ニ而相延申候、近日知行所へも御越候由ニ候間、暇乞旁ニ參候而帰りニ菅沼九兵衛所へ立寄、七前ニ帰宿仕候

同八日

先日安宮様、長福様御登城被遊、其以後為上使美濃殿御出旁之為御礼御登城被遊度由、内々御老中迄被仰入候ニ付、今日御登城被成候様ニとの儀ニ而、今朝四時分ニ御登城被遊御首尾残所無御座、昼時分ニ御帰被遊候、加納平次右衛門御供仕候、水野対馬守ハ御当地ニ罷有候ニ付、御様子為伺登城仕候、拙者儀今朝五過ニ罷出、御帰館以後帰宿仕候
一 今朝嶋津修理殿の談入之使者左兵衛殿へ參、首尾能相調申候、就夫為御祝儀御屋布直ニ御松姫様、左兵衛殿へ伺公申候

一 久世勝之助殿昨日三番湯迄御懸り候由ニ付、為祝儀大和守殿へ見廻申置罷帰候

一 先日致拝領候御鷹之雁之披キ延引、今晚市十、平次右、其外何も私宅へ申請披キ頂戴仕候、今日ハ目出度御時分ニ而
一 入首尾能、何も緩々と咄被申候、八時分ニ被參、夜半時

分ニ帰り被申候

同九日

今朝四時分ニ罷出、頓而致御目見しバラく御前ニ罷有、昼時分ニ帰宿仕候

同十日

今朝四過ニ罷出候処ニ、松浦肥前殿御見廻、頓而御対面被遊、しバラく御咄御座候而御帰候、其以後又御前へ罷出しバラく罷有、昼過ニ帰宿仕候

同十一日

今朝四時分ニ罷出、頓而致御目見しバラく御前ニ罷有、昼時分ニ帰宿仕候

一 今晩水越中方大甚兵衛殿、小助左衛門殿、正甚五兵衛殿、山焉求、私宅ニ而振廻申候、何も八時分ニ御出、幸若八左衛門舞などニ而緩々と御咄、夜半時分ニ御帰候、内藤若狭殿ハ今晩左京様へ御出、夫々直ニおしかけ夜ノ五前ニ御出御咄候、坂部三之助殿も御同道也、但三之助殿ハ早ク御帰候、渡源藏殿も無扨所へ振廻ニ御越、暮候而御出、右之通緩々と咄御帰候

同十二日

晩方雨

今朝四前ニ宿罷出、菅沼九兵所へ見廻、夫々御中屋敷へ罷出、頓而致御目見、其以後左京様御前ニしバラく罷有、昼過ニ帰宿仕候

一 今晩小出権太、戸田藤左、大沢善右、中川七左、海野五郎三、三上甚太、土岐宗見など振廻申候、八時分ニ何も被參、夜ニ入五過ニ首尾能帰り被申候、此振廻ハ両殿様御機嫌能殊今度安宮様、長福様始而御登城被遊候御事、乍恐目出度奉存候而之儀也

同十三日

昼時分の雨

今朝四前ニ御上屋布へ罷出、御用人衆部屋へ立寄、夫々宮様御殿へ致伺公候、是ハ先日安宮様、長福様御登城被遊候為御祝儀御肴指上申候、使之者白銀致拝領候御礼海野五郎三迄申達、夫々御中屋布へ罷出頓而致御目見、其以後も両度迄罷出、しバラく御前ニ罷有候

一 明日大殿様、左京様へ被為成候ニ付、今日左京様へ片桐石見殿御出候ニ付、拙者ニも出合候様ニと石見殿御申越候ニ付、昼四つ過ニ左京様へ致伺公、石見殿ニも逢申候
一 明日大殿様被為成候ニ付、拙者式ニも御勝手ニ而御料理可被下之旨、從左京様為御使石井又市方被成下候ニ付、右御

礼鈴木四郎兵方へ申達、左京様へも御目見仕、昼過ニ帰宿仕候

一長徳院養貞振廻申候、幸若庄大夫、同弥兵衛呼候而まわ七申候、たかたち其外小舞数々也、八時分ニ御出、夜ニ入五時分ニ御帰候

同十四日

今朝五半時分ニ為上使久世大和守殿御出之由申來候ニ付、五時分ニ御中屋布へ罷出候

一 大和守殿先尾張様へ御越、夫分御中屋敷へ御出、しばらく御咄候而四前ニ御帰候

一 大殿様今度始而左京様御屋布へ昼時分ニ被為成候、銘々ニ御祝儀物品々被進候、大七郎様、源之助様、大之助様へ御道具ヲも被進候由、拙者儀今晚ハ久々之約束ニ而手前へ客御座候、如何相延可申哉と頓、市十、平次右へ談合申候処ニ、其段達御耳相延申儀無用ニ仕候様ニとの御意ニ而、御中屋布分直ニ左京様へ致伺公、大殿様被為成候御時分御玄関迄罷出、御座之間へ被為入候而之御あいさつ申上、夫分御奥へ被為入候而之以後帰宿仕候

一 八時分ニ坂部三十郎殿、同三之助殿、小栗長右衛門殿、私

宅へ御出淪林も参り、今日永井伊賀殿京都所司代ニ被仰付御加増迄拝領之由、就夫長右衛門殿などハ、万事伊賀殿御支配之御事ニ候故、早々右之悦ニ御越可有由ニ而、益こと相濟候と則御立候

一 妻木彦右衛門殿へ三十郎殿分内証御申越候故、今晚夜ニ入おしかけ御出御咄候、渡部源藏殿ハ内々先約之方へ御越、暮合分御出御咄候、半十郎参、小歌舞などいたし、何も緩々と御咄、夜半時分ニ御帰候、首尾残所無之候

同十五日 夜ニ入雨

今朝四前ニ御上屋布へ罷出、先御用人衆部屋へ参、夫分安宮様へ致伺公御祝儀申上、長福様へハ致御目見、夫分内藤若狭殿へ見廻申候、是ハ先日御出候礼旁也、夫分菅沼九兵衛所へ立寄、扱左京様御殿へ致伺公、今日之御祝儀昨日大殿様被為成御機嫌能、緩々と被成御座候、御悦御用人衆迄申達候

一 扱御中屋敷へ罷出、頓而致御目見しばらく御前ニ罷有、昼時分ニ御中屋布罷出、永井伊賀殿へ参、昨日重畳之御仕合目出度存候旨申置、夫分帰宿仕候

同十六日

今朝四前ニ菅沼九兵所へ参候、是ハ半之助疱瘡見廻也、い
かにも憚り有之候故、頓而御中屋布へ罷出、追付致御目見
しバラく御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候

一 今晩加々爪甲州へ茶湯ニ参候、渡部源藏殿、畠山牛庵老、
石川淪真相伴也、坂部三十郎殿ハ久世大和殿へ振廻ニ御越、
夫々御出候ニ付、中立る数寄屋へ御入茶参候、道具ハ定家
懐紙、懸物かねの物かうじ口、大耳之花入、瀬戸茶入名雲
井いど茶わん、としや手茶杓、遠州釜、うば口うさきノく
わん付水指、備前香箱、青具布袋地、紋たからづくし、三
つ羽大鳥

一 勝手へ出、色々道具共御見せ、緩々と語り、夜四時分ニ帰
宿仕候

同十七日

今朝上野へ為御名代原田市十郎被遣候、拙者儀今朝五過ニ
罷出候処ニ、追付致御目見しバラく御前ニ罷有候、其節
御膳被召上候御時分ニ而其内も御前ニ罷有、其上御前ニ而
御酒頂戴仕候

一 今日日光久野御鏡御頂戴被遊候、扨左京様御頂戴被遊候、
尤又殿院被参候、其以後拙者式も奉頂戴候

一 昼時分ニ御屋布罷出、半之助疱瘡見廻ニ九兵所へ参、昼過
ニ帰宿仕候

一 明後十九日大殿様へ因幡輿様御膳御上ケ被為成候ニ付、其
節拙者式ニも御勝手ニ而御料理可被下之旨、昨日御使者被
成下候、其節か、爪甲州へ参、夜ニ入帰宿仕候ニ付而、今
朝朝倉三之丞方迄、先以使者御礼申上候

同十八日

今朝四時分ニ左京様御登城被成候様ニと稲葉美濃守殿ハ彦
坂儀左衛門を以被仰越候ニ付、御登城被成候処ニ、伊予之
国ニ而御知行三万石御拝領被成候、大殿様御太悦其感も無
御座下々迄奉恐悦候、就夫今晩大殿様、左京様へ御樽肴指
上申候、因幡輿様、御松姫様、左京様輿様へも御肴一種つ
、指上申候

一 今晩阿部播摩殿、同美作殿、柳生飛彈殿、同大膳殿御振廻
被成候、昼時分御出、美作殿、大膳殿兵法御覽被遊、扨
御料理出、御茶過候而之上、又右之兵法御覽被成候、飛彈
殿之兵法ヲも両三度御覽被為成候、扨御盃こと被遊、七前
ニ何も御帰候

一 拙者儀今朝四前ニ宿罷出、妻木彦右衛門殿、三枝隠岐殿へ

先日御出候礼返しニ參、夫々御中屋敷へ罷出、右御振廻相濟候而、以後左京様、同奥様へ今日之御悅ニ致伺公、七時分ニ帰宿仕候

一菅沼九兵病後始而うい立ニ今晚私宅ニ而振廻申候、七過ニ被參五前ニ歸り被申候

同十九日

昨日左京様御領地御拝領被成候、為御礼今朝四過ニ大殿様御登城被遊候、目出度御登城ニ而御座候間、御供仕度由申上候へハ、尤ニ被思召候間、御供仕候様ニと被仰出御供仕候、拙者儀少御先へ罷出、御城御玄關ニ相待罷有御供相動申候、市十郎、平次右衛門ヲも御供ニ被召連、御城々御老中へ之御使ニ被遣候

一於御城頓而御座之間ニ而被遊御目見良しバらく御前ニ被成御座、御仕合能残所無御座由、御婦ニ安宮様へ被為寄、しばらく被成御座御中屋布へ被為入候、拙者儀御婦ニハ致御供御上屋敷へも御供仕、尤御中屋布へ被為入候迄御供相動申候

一今日大殿様へ因幡奥様御膳御上被為候、拙者共ニも御料理被下、七時分ニ帰宿仕候

一七半過ニ被為召候而、又御中屋布へ罷出御能見物仕、夜ニ入帰宿仕候

同廿日

今朝四前ニ宿罷出、先日御見廻之礼、又近日在所へ御越候暇乞旁ニ柳生飛彈殿へ參、少之間語り、夫々因幡奥様へ致伺公、昨日之御祝儀又御勝手ニ而御料理被下候御礼等申上、夫々浅草知楽院へ參、しばらく語り、夫々直ニ御中屋布へ罷出、追付致御目見良しバらく御前ニ罷有、八前ニ帰宿仕候

同廿一日 終日雨

今朝御堂へ為御代參原田市十郎御上被成候、左京様御參詣被遊御配膳御勤被成候、拙者儀今朝六半前ニ罷出、如例御花指上御法事相濟候、以後御名代之御拝左京様之御拝相濟候以後奉拜、五過ニ先帰宿仕候

一 大野当住、日養聖人、今日大殿様へ継目之御礼被申上候ニ付而、又四時分ニ御中屋布へ罷出、追付致御目見良しバらく御前ニ罷有、日養聖人御礼被申上候刻、御あいさつ申上、八時分ニ御中屋布罷出、半之助疱瘡見廻ニ立寄申候、九兵ハ左京様御殿へ被罷出、留主故則帰宿仕候

一今晚双殿院へ振廻ニ参筈ニ而有之候処ニ、雨天故相延被申候、必参候事無用之由、重々被入念被申越候ニ付、伺其意延引仕候

同廿二日

今朝四時分ニ罷出候処ニ浅野内匠殿、松平織部殿、同内蔵允殿、同主馬殿御出、御対面被遊、御盆ことなど御座候而しバラく御咄被成候、其以後小嶋孫右衛門殿、今度左京様御拝領被成候御領地之絵図御持参候而被懸御目候、但孫右衛門殿ハ今日始而也、小嶋助左衛門殿同道也、しバラく御咄御のし出御帰候、其以後拙者儀八時分ニ帰宿仕候

一今晚久々之約束ニ而、山口焉求へ振廻ニ参候、始而ニ而候故、黄金一枚持参九兵同道也、太刀目録持参、茶湯ニ而懸物隆蘭溪花入、かねの物すゞなり、無紋口之所ト立ニうねすじ耳有、茶入春慶、茶わんキンかい、茶杓利休、釜せめひばなり、菅屋水指、とう頭巾かうらいか

一書院ニ後伏見院山夕暮之歌之懸物、歌書二条家為古今集其外色々かざり物有、八半時分ニ宿罷出、夜ニ入八過ニ帰宿

同廿三日

今昼過ニ為上使土屋但馬守殿御出、大殿様へ御暇出申候、

就夫明後廿五日御登城可被成由、其節御振廻被為成、御暇乞可被遊之旨、結構成上意之由、大殿様殊外忝御太悦被遊候、下々迄別而目出度奉上悦候、則為御礼御登城可被遊哉と御意被成候得共、御延引被遊候様ニと但馬殿御指図故、御老中其外へ市十郎、平次右衛門御使ニ被遣候

一但馬殿御帰之節、対馬、拙者などニ御申聞候ハ、大殿様へ御暇被進候、何も御供ニ被召連候様ニ、右人々之書立いたし、彦坂儀左衛門を以進之候、可申由被仰候

一今晚天野孫左衛門殿へ久々之約束ニて振廻ニ参候筈ニ候処ニ、右之御様子故、拙者式も取込申候、殊加納平次右衛門儀ハ方々へ之御使ニ参、其外御用共多ク御座候間、何共残成間布候、内々不図障入之儀候ハ、相延可被申由、兼々孫左衛門殿へ申談置候間、是非相延候様ニと平次右被申候、拙者あいさつニハ、尤其通ニ而候へ共、去春も孫左衛門殿へ被召寄筈ニ有之所ニ、中納言様御暇出伺公不申、又候哉此度も右之通殊今晚の儀、只今至テ御指延候様ニとハ何共難申候間、是非及暮候而成共可参由立而申候へ共、ぜんなく相延候様ニと被申候故、左候ハ、兎も角も平次右次第とあいさつ仕候

一平次右内々ふと急成障入も候ハ、御断可申由前方孫左衛門殿へ申談置候ニ付而、則平次右方々右之旨申達、今晚の儀御延候様ニと被申越候、拙者も孫左衛門殿へ以使者右之段ニ何共御残多奉存候へ共、平次右衛門立而申候ニ付、伺其意先延引仕候旨申越候処ニ、いかにも被得其意候、時分の儀ニ而さへ無扱用所有之候ハ、不及是非儀ニ有之処、いわんや公儀之御事ニ候間、尤至極成由御申越候ニ付而弥致延引候

一今度普沼九兵氣色本復之いわひ、又拙者近日致御供罷上候、暇乞として近日振廻申度由、然所ニ今晚之振廻相延候、幸の儀ニ候間、振廻被申度由ニ候、拙者あいさつニハ尤其通ニ而候へ共、孫左衛門殿へ久々之約束ニ候へ共、右之通ニ候処、尤私宅同前之儀御屋布へハ尚以程ちかく候得共、振廻と有之儀ハ如何ニ候間頃、半之助気色見廻ニも参候間、いきが、リニ常之料理給候様ニ可参由申談、七過ニ参日暮候而、追付帰宿仕候、宗佐斗相客也

同廿四日 七時分る雨

太田備中殿、永井日向殿、片桐石見殿、村越道半老、内々とく御出候筈ニ候へ共、何かと相延候ニ付而於御障ハ、各

被仰合、今昼時分御出御咄候様ニと、昨日太田備中殿へ拙者方々申越候処ニ、右之御衆今昼時分御出候、松浦肥前殿内々此由及御聞、肥前殿ハ昼前分御出御咄候、右之御衆御呼被為成候ハ、御年請之内ニ入候儀御尋可被成との儀也、就夫今日ハ御情進日にて候へ共、結局各御障ニ而候ハんとの儀ニ而、俄昨日被仰越候へ共、右之通ニ何も御そろい御出候、一陽道知罷出、覚書ニ而承度事ハ相尋申候、何も昼時分ニ御出、八過ニ尤情進之御料理出、扱御座之間ニ而御茶出申候、但石見殿ニ手前御所望ニ而御立候、扱又御咄御座候而、其内も一陽道知罷出承候

一扱七時分ニ何も御立候ニ付、重而御参府之節御対面可被遊との御暇乞被遊、何ぞ参候而御帰候様ニと御意被成候ニ付、又最前之御屋敷にて後段出、緩々と御語り七半時分ニ御帰候、拙者儀御玄閑迄おくり何もへ暇乞迄申候

一御茶之時分ニ稲葉美濃殿分左京様へ少御出候様ニと申来、則被成御座何も御立候時分ニ御帰被為成候、然共最早何もニハ御逢不被成候、拙者儀今朝四過ニ罷出、右之通相勤帰宿仕候

同廿五日

一昨日御暇被進候ニ付、今朝四過ニ御登城被遊候、御振廻御座候而、其以後御かこいニ而公方様御手前ニ而御茶被進候、

扨御座之間ニ而御盃こと御座候而、如何御馬御鷹御拝領被為成、重疊結構成御様子共ニて、大殿様御太悦其感も無御座候、御城分直ニ井伊掃部殿御老中へ御礼ニ被為成御座、御帰館以後尚以御機嫌之御事也

一若年寄衆へハ為御名代左京様御越被為成候

一御かこい之御道具御掛物円悟、蜂須賀阿波守上ル、御花入大ニそろり、土井大炊頭上ル、御茶入大隅かたつき、井伊掃部頭上ル、御茶わんかうらい三嶋、土井大炊頭上ル、御

釜桐竹中御水指、信楽新身、御茶杓利休、酒井雅楽頭上ル、

御香合青がい扇かた長崎

一右御相伴井伊掃部殿斗之由

一今日御供ニ被召連候者共、原田市十郎、加納平次右衛門、

松平九郎左衛門、宮地久右衛門、福岡太郎八、松下左五之

丞、拙者以上七人也、大殿様御退出以後、御黒書院之御次

へ御老中御呼美濃殿被仰候ハ、何もニ呉服御羽折被下之旨

被仰渡、扨拙者一人御前へ被召出、右之御礼雅楽頭殿か被

仰上候処ニ、もつと御前へ罷出候様ニとの御儀ニ而、上意

御座候様ニ承候、扨御前拙者罷立候以後、残六人之者一度ニ被召出候

一御城分御老中、若年寄衆、永井伊賀殿へ御礼ニ參、扨御中屋布へ罷出、今日之御祝儀又御影故、拙者共致御目見呉服御羽折頂戴仕、過分冥加至極ニ奉存候旨申上、八半時分ニ帰宿仕候、今朝ハ五過ニ御屋敷へ罷出、少御先へ罷出、大鉄砲御番所ニ相待罷有、夫分御供仕候

一御用御座候而拙者儀被為召、夜ニ入六半時分ニ罷出、五半時分ニ帰宿仕候

同廿六日 夜ニ入雨

今晚酒井雅楽頭殿、久世大和守殿、永井伊賀守殿、堀田備

中守殿、板倉筑後守殿御招請被遊候、但御かこいニ而御茶

湯也、御懸物さいおう、御茶入ひやうたん、若狭盆ニのる

御すミ御茶迄、大殿様御手前ニ而被遊候、御釜之あけおろ

しハ山本道局ニ被仰付候、御茶過候而御座之間へ御出、旧

冬御拝領被遊候公方様御拳ニ而御取せ被為成候御鷹之雁御

頂戴被遊候、觀世大夫參うたい申候、扨雅楽殿、大和殿と

しバラく御語り被為成候、御居間御かざり被為成御かざり

物ハ、先年御拝領被遊候青貝之御棚、当正月御台様分御拝

領被遊候御香箱也、右何も御老中御拜見也、扱ぎよくかうの図、御えんかわニ被為置、何もへ御見せ被成候、北条右近殿御出御取持也、何も昼過ニ御出、八過ニ御帰被成候
一拙者儀今朝四時分ニ罷出、七前ニ帰宿仕候、然所暮合ニ被為召、又罷出夜ニ入五前ニ帰宿仕候、今晚為暇乞正甚五兵、山口焉求被參咄被申候、九兵、五郎右衛門、宗佐も參語り候而、夜半時分ニ何も帰被申候

同廿七日

今晚稲葉美濃守殿、土屋但馬守殿、大井能登守殿、松平因幡守殿御招請被遊候、御馳走之様子万事昨日之とし、但公方様御拳ニ而御取せ被為成候御鷹之雁ハ、則御汁ニ而御かこいへ出、何も頂戴被成候、大殿様ニハ昨日御頂戴被遊候ニ付、其儀無御座候各昼過ニ御出、八過ニ御帰被成候、松平民部殿も御出候筈ニ候へ共、御用御座候而御延引也、北条右近殿昨日之ことく御出御取持也、尤山本道局、觀世大夫も參候

一七時分ニ酒井河内守殿御招請也、是又万事昨日先刻の通也、吉良上野殿御相客也、尤北条右近殿御取持御相伴也、然所ニ各御食參候内ニ、尾州様、同中将様、水戸様御出被為成

候、御座之間ニ而御暇御盃こと被遊候、扱御かこい之御茶過候と、則河内殿御座之間へ御出、尾州様、中将様、水戸様へも御対面ニ而、ぎよくかうの図など御覽候而、河内殿則御帰候、上野殿、右近殿も同時ニ御立候

一其以後、尾州様、水戸様、中将様御帰被為成候、御供ニハ寺尾土佐守、中山市正、石川李左衛門也、御立之節右之衆ヲも大殿様御前へ被召出被致御目見候、拙者儀今朝四過ニ罷出、右何も御立被為成候以後御中屋布罷出、内藤若狭殿へ暇乞、又ハ来月朔日御振廻之儀此方断申候ニ付御延候、其礼旁也

一夫々御上屋布へ罷出、安宮様御殿へ致伺公、明日大殿様御發賀被遊候ニ付、拙者も致御供罷上候故、今朝以御使者御卷物致拝領候御礼、尤明日致御供罷上候旨、海野五郎三郎方へ申達候、長福様へも明日致御供罷上候段可申上と奉存候処ニ、御中屋敷ニ被為成御座候故、五郎三方へ其段頼入御用人衆部屋へも可參と存候へ共、最早宿所へ御帰可有と存、中川七左、大沢善石へ使指越、日暮候而帰宿仕候

一拙者儀今朝卯ノ刻ニ宿罷出、久世大和守殿、板倉筑後守殿へ暇乞ニ參候、右御兩人ニ首尾能懸御目候、筑後殿ニ而ハ

石見殿へも御暇乞申候由申置候、夫今因幡奥様へ致伺公、一昨日以御使者時服致拝領候御礼ヲも申上、相州様御玄闕へ致伺公、昨日以御使者時服被下置候御礼ヲも申上、壹岐守様御玄闕へも致伺公、荒尾志摩、鎌田右衛門兵衛所へも使指越申候、坂部三十殿へ暇乞ニ參、夫今井伊掃部殿へも參、五時分ニ帰宿仕、扱四過ニ宿罷出、三枝隱岐殿、妻木彦右衛門殿、諏訪勘兵衛殿へ參暇乞、又御近所之事ニ候間、屋布之儀頼入候由申置、諏訪左門殿へ暇乞ニ參、夫今松平左兵衛殿御玄闕へ參、夫今御松姫様へ致伺公、明日致御供罷上候段、真田弥三右衛門ニ申達、夫今御中屋布へ罷出、右之通相勤申候

一石橋市左衛門ニ道具共相添、今朝先へ上せ申候、生庵、梅原、弥大夫ヲも相添越申候

同廿八日

今朝左京大夫様御登城被成、今度御領地御拝領之御礼首尾能被仰上、御老中御廻り被成、昼過ニ御中屋敷へ被成御座大殿様へ御礼被仰上候、御樽肴御時服五、御太刀目録金馬代御進上被為成候、大七郎様も御礼被仰上候、但御箱肴一種也、則御両所様へ御のし被進御退出也

一今朝四時分ニ保科肥後守殿御出被成良しバラく御咄、扱御かこいニ而御茶被進候、其御座敷へ拙者被召出、肥後守殿被召上候御茶之御残いただき申候、扱御かこい今昼前ニ御掃被成候

一大殿様八過ニ御筥駕被遊候、拙者儀御門外迄罷出、頓而路次ニ而可奉追付之旨申上、御跡ニ相殘、夫今直ニ左京様へ致伺公候、先刻以御使者今度御領地御拝領被遊候、御祝儀と御意被成、御樽肴御小袖一重并路次之ため被下置之旨ニ而御茶一種并御くわし拝領仕候、右御礼敷安左方へ申達、夫今御奥様へ致伺公、是又今朝御羽折御肴被下置候御礼申上候、尤致御供罷上候旨申上候、大之助様御出被成御目見仕候

一夫今九兵衛所へ暇乞、又半之助弥氣色能頓而上り被申候哉との見廻旁ニ參、七前ニ帰宿仕候

一拙者儀明日ニ而も明後日ニ而も、勝手次第ニ罷立候様ニと被仰出候ニ付、則今日致御供罷立候分ニいたし、逗留仕候

同廿九日 時々少雨

拙者儀今日罷立候へハ、御供合近ク罷成候ニ付、今日ハ逗留いたし候

一 左京様川崎迄昨日御おくり被為成、今昼時分ニ御帰被成候、
大殿様御機嫌能川崎御立被為成候間、目出度可奉存候旨、
将又御暇乞之節、御召被為成候御小袖御拝領被遊忝被思召
之旨以御使者被仰聞候、則御礼ニ可罷上候へ共、拙者儀昨
日致御供罷立候分ニ而御座候故罷出候へハ、自然誰ソニ懸
御目候へハ、相違仕候ニ付不罷出候、此等之趣向御心得御
礼之段頼入候由、鈴木四郎兵方迄以使者申達候、菅沼九兵
へも其段申越候

一 七過ニ鳥居五右、成由八太、西村清左御用御座候而被參候
ニ付、無是非逢申返し申候

一 日暮候而九兵暇乞として私宅へ被參、緩々と咄、扱昨日左
京様へ致拝領候御茶九兵と頂戴仕候、四過ニ九兵帰り被申
候

